

甲状腺外科草子 25

華岡流手術器具の値段

華岡青洲の手術記録、資料、手術器具などの展示はこれまで、日本外科学会、がん治療学会など多数の学会で展示されてきた。

各種資料は成書などに記載されているが、実物を目の前で見る機会は希少である。



青洲の執刀場面（治験図巻）

青洲が手術を行っている絵では老眼鏡のような眼鏡をかけ、茶色の和服を着用している。恐らく、50代以降の手術風景であり、頸部の血管腫、または結核性リンパ節炎の手術であろうか。



手術着兼羽織

愛用の眼鏡

2004年の日本外科学会では、それと思しき羽織兼手術着と眼鏡の展示が行われた。

会場には手術記録や当時の書籍などの資料のほかに、メス、鉗、鉗子など多数の手術器具の実物が展示されていた。

鉗子や鉗は良く使い込まれ酷使されたものと見え、経年変化もあり状態は悪くなっていたが、持ち手部分や先端の微妙な湾曲角度などに工夫がこらされていた。これらを至近距離で見ることができ、感慨深いものがあった。

それ以上に興味深かったのは、これらの様々な手術器具の販売が手広く行われ、種類ごとの値段も公示されていることである。華岡流の手術は日本各地でも名声を博し、人気があったであろう。



青洲の使用した各種手術器具

流諸 外科御道具師		大阪阿波屋	
肉切鉗	18 匁	18 匁	6000—15000 円
コロンメス	7 匁 5 分	7 匁 5 分	2500—6250 円
鉗子
...

大阪阿波屋の手術器械の販売カタログ

大阪阿波屋では、華岡流など多数の外科手術器械を販売し、その記録（カタログ）が残されている。肉切鉗が 18 匁、コロンメスは 7 匁 5 分の値段となっている。江戸時代の金銀は変動相場制で、時代毎に異なる。1 両（約 50000 円前後）= 4 分 = 16 朱 = 60 匁 ~ 150 匁と計算すれば、肉切鉗 18 匁は 6000—15000 円、コロンメス 7 匁 5 分は 2500—6250 円ぐらいである。現代の手術器械と比較しても納得できる価格であろう。

参考文献

上山英明. 華岡青洲先生 その業績とひととなり. 1999. 和歌山市立博物館. 華岡青洲の医塾, 春林軒と合水堂 2012

（一 甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022 年 4 月 7 日